

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.35 (通巻 39 号)

平成21年7月2日発行

【目 次】

- こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— …………… 1
【38】 「わくんのしおり」はあるか。本屋で買えるか。
- 市町村のみなさんから発信【24】 …………… 2
「案山子を作りたいになったら図書館に行ってみる」 標茶町図書館 丹 和也 さん
- オススメ情報 国立国会図書館“リサーチ・ナビ” …………… 3
- こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー 【25】 …………… 4
類語辞典を比較する
- Librarian's Box (ししょぼこ) 【22】 …………… 5
地球と宇宙の間に ～ 天文情報を調べる ～
- 課員のつぶやき —日々の業務からの短信— 【22】 …………… 6
～ レファレンス、いつでもお受けします！ ～
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 (2009年2月～2009年5月分) …………… 7
- News …………… 9
 - 1 国立国会図書館の書誌データがダウンロード可能に(2/24)
 - 2 道立図書館、有料データベース5種類に(3/1)
 - 3 国会図書館HPでプランゲ文庫の検索が可能に(4/1)
 - 4 千歳市立図書館、バリアフリー移動図書館車導入(4/1)
 - 5 道立図書館、個人向けメールレファレンスを開始(4/1)
 - 6 恵庭市立図書館、子ども用ホームページを公開(4/15)
 - 7 様似町図書館の新聞記事リスト5周年(4月)
 - 8 子ども書庫ツアーを開催(5/5)
 - 9 国立国会図書館しらべものの総合サイト「リサーチナビ」公開(5/11)
 - 10 道民カレッジ連携講座 初級編・応用編を連続開催(5/21・6/25)
 - 11 北広島市図書館「Webレファレンス」はじまる(6/2)
 - 12 全道図書館新任職員研修でレファレンス演習(6/3～6/5)
 - 13 市立釧路図書館、釧路高専図書館連携協力から半年
- 編集後記 …………… 12



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのきました —参考調査課によせられたレファレンス— 【38】

「わくんのしおり」はあるか。本屋で買えるか。

地方都市在住のお得意さんからの質問です。

大きなライフワークをお持ちの方で、ものの名前に関連した資料をお求めのケースが多い方です。

今回は、平凡社の『大辞典』に項目のある「わくんのしおり」（倭訓栞）という書物について、当館で所蔵しているか、また、復刻版などが存在するなら、入手するための情報もほしいとのご要望で、これまでも、所蔵機関の調査や出版情報、場合によっては古書の流通に関わる情報の提供も行ってきました。

さて今回の『倭訓栞』。当館の所蔵としては、1887（明治20）年、成美堂発行の「後編」のみ、1～18（一部欠巻あり）がありますが、貸出不可資料です。道内の公共図書館では、数館にタイトルはありましたが、貸出可能なところはありませんでした。

次に、入手可能性のある復刻版について、国立国会図書館の所蔵データを元に、主なものについて調査し、復刻の元版資料についてもお知らせして一件落着となりました。

当館としては、代表的な「古辞書」類の収集にも努力してきたところであり、今回求められた資料についても、入手可能とわかった以上、備える必要がないか検討してはどうかと考え、成立事情や学界の評価などを調べてみることにしました。

『倭訓栞』とは、どのようなものか。『日本古辞書を学ぶ人のために』（注1）の解説などを参考に略記すると以下のようになります。

『雅語集覧』『俚言集覧』とともに近世期の三大辞書と言われ、近代的国語辞書の性格を有す。編纂者の谷川士清（たにかわ ことすが）【1709（宝永6）～1776（安永5）年】は伊勢国津の人、家は代々医師を業とした。

本書は前・中・後編から成り、全93巻82冊。前編の一部は士清の没後、1777（安永6）年に刊行開始、以後三次にわたり、後編の刊行は1887（明治20）年であった。

本書は見出し語が五十音順に排列されているのが大きな特徴であり、収録語も和語、漢語、外来語、雅俗と国語全般にわたり、妥当な語釈が施されている点においても、語彙研究に有用である。

このような調査をする際、百科事典や『国史大辞典』を思い浮かべますが、国語史に関する事・辞典が大変有効です。新しいものでは『日本語学研究事典』（注2）があります。これは『国語学研究事典』（注3）の新版として編集されたもので、過去三十年の学問の進歩を反映した新分野の項目を立て、誰がどんな研究を行ったかを端的に示そうとするものです。

特に注目するのは「資料編」で、今回の調査のように古文献、古辞書類の成立事情、諸本等の解説が詳細です。

検討の結果、当館では名著刊行会発行の復刻を購入しました。ご利用ください。

（注1）日本古辞書を学ぶ人のために 西崎亨編 世界思想社 1995.5 <813/NI>

（注2）日本語学研究事典 飛田良文ほか編 明治書院 2007.1 <810.3/NI>

（注3）国語学研究事典 佐藤喜代治編 明治書院 1977.11 <810.3/NI>

市町村のみなさんからの発信 【24】

「案山子を作りたくなったら図書館に行ってみる」

標茶町図書館 丹 和 也 さん

「案山子を作りたくなったら図書館に行ってみる」

標茶町図書館に勤務し、図書館バスに乗って大草原を走り始めてから1年が経ちました。まだ牛に絵本は読んでやっています。

昨年は道立図書館のレファレンス研修、また今年は昨年参加できなかった新任研修会にも参加させていただきました。どちらも大変内容の濃いものでしたし、その内容は繰り返し復習して、しっかりと身に付けていきたいと考えています。研修に参加させていただいたことにより、私の中でレファ熱・図書館熱がフツフツと温まり良い湯加減になっています。まだまだ未熟な私は、これからもこの灯を絶やさずに精進させていただこうと考えている次第でございます。

さて、最近、こんなレファレンスを受けました。「カカシの本ってありますか？」

お孫さん(?)を連れた年配の方でした。聞くと、ご家族みなさんでカカシを作るらしいです。お話ししながら、ひとまず児童書の「農業」の棚にご案内しました(ひとまずは参考にカカシの写真が載っているもの。あわよくば作り方の載った本をということ)。頭の中ではさだまさしの曲が流れはじめていて、うっかり口ずさんでしまいそうでした。

『棚田を歩けば』(青柳健三著 福音館書店 2007)という棚田の風景がカラーで載った本があり、そこに色々なカカシの写真が2ページ載っていました。例えばこんな本。

利用者さんが農業の棚(すぐ近くに農業の一般書・専門書のコーナーもあります)を見ている間、少し他の棚を探したところ、そのものズバリ『みんなで出かけよう!わたしたちの社会見学⑤ かかしづくりに挑戦しよう』(コンパスワーク編著 偕成社 2003)という本があったのでお渡ししました。たいそう喜んでいただき、若干興奮され、お家の場所まで教えてくれました。今度、見に行きますと伝え、ひとまずは解決。

気分良く、他にもないかなと思って少しウロウロしてみました。結局特別使えそうなものはなかったのですが、「カカシ作り」だけで参考図書や、写真集、工芸、民俗だとか、少し足を伸ばせば鳥類、木工なんかに当たっても良いのかも知れない…などと考えはじめてきりがなくなってしまいました。絵本なんかも参考になるかも知れません。

私の図書館は電算化していないので、所蔵の確認は書名目録に頼ることになります。書名目録で「カカシ～」を探すと、前述の『カカシづくりに挑戦しよう』を見つけることができました。ひとまず目録から当たっても良かったのかも知れません。

どんな流れで探していくか、時々によって対応は違ってくるのでしょうか、特に様々な分野に関連する内容の場合、手順を違えたときには、回答まで大きく遠回りしてしまうかも知れないなど、改めて考えさせられました。

さて、このレファレンスから2週間ほど経った頃、カカシを見に行きました。

ありました。カカシ。なんだか嬉しい。

ちょうど本を借りられた方が作業をしていたので、「カカシ作ったんですね。」と声をかけて、しばらくお話をしました。「とりあえず1つ、本を見ながらみんなで作りました。」とのこと。これからまだ増えるそうです。カカシ。

頭の中では、またさだまさしの曲が、今度は響き渡っていました。

「なにかあったら、また来て下さいね。」と、にこやかにその場を去りました。

こうして喜んでいただけること、役に立てているんだという実感が得られることは、何よりの支えになりますし、何よりの喜びでもあります。
もっと役に立てるよう努力したい。そう思いました。
そして、たまには実家に連絡をしようと『案山子』を口ずさみ思うのでした。

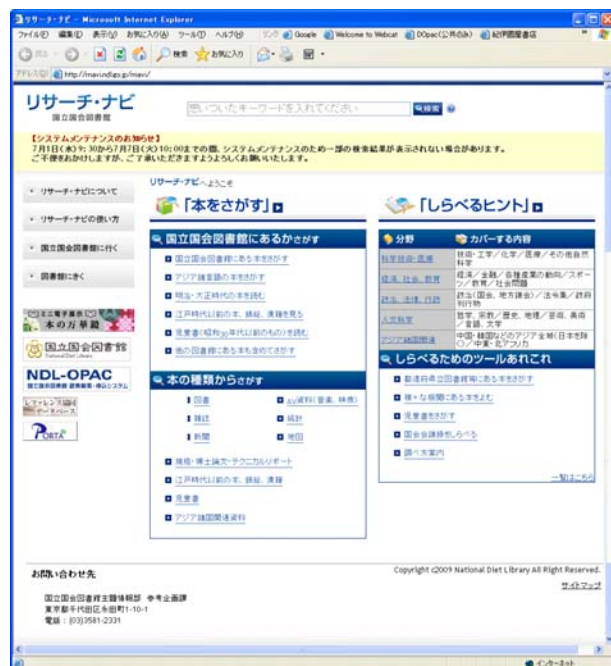
オススメ情報 国立国会図書館“リサーチ・ナビ”

我が国唯一の納本図書館として知られる国立国会図書館（NDL）ですが、近年は国立公文書館ともども電子図書館化の道をひたすら突き進んでいる観があります。（“電子図書館”というのも今や少々旧くさい言い回しなのですが置いて…）その国会図書館から2009年5月11日に新しいウェブサービスのサイト「リサーチ・ナビ」が公開されました。

リサーチ・ナビのTOPページは非常にシンプルなもので、調べものをしている人が、求める情報に効率よくたどりつけるよう、「どのような資料を見たらよいか」「どのように資料を探せばよいか」といった「調べ方のヒント」を提供するコンセプトになっています。

堅苦しい印象はなく、新学期に何もわからずに図書館のカウンターにやってきた学生利用者に「どんな事がら調べたいのかな？」と訊くところからはじまり、図書館の利用方法、参考となる資料の集め方などを一通り教える利用ガイダンスのようなごく身近なサービスをそのままサイトにしたイメージといったらわかりやすいでしょうか。

とりあえず簡単に使う方法は、TOP画面の一番上にある「思いついたキーワードを入れてください」ボックスに思いついたキーワードを入れて検索ボタンを押すだけで使えてしまいます。“ナビ”と銘打っているだけにポータルの「調べ方」「本・サイト」「キーワード」「百科事典」のそれぞれの代表的な検索結果のページが数件ずつ表示されるようになっています。まずは、「鳥インフルエンザ」あたりで検索してみてください。きっと、この「リサーチ・ナビ」の性格がわかるし、このページがあなたのお気に入りになることでしょう。



「リサーチ・ナビ」では、これまで国会図書館が蓄えてきた資料や情報を“使い尽くす”ためのホームページです。従来の蔵書の検索よりも遥かに先を見ている新しい姿なのかもしれません。

<http://rnaui.ndl.go.jp/rnavi/>

(参考資料: カレントアウェアネス-E No.149 2009.05.13 <http://current.ndl.go.jp/e924>)

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー

類語辞典を比較する

日常業務の中で類語辞典を用いることはそう多くはありません。序文を読むと、原稿作りの手助けとしての1冊を念頭において作られているものが多いことに気づきます。スピーチや文章を書く参考資料を求めて図書館へ足を運ぶ利用者へ例文集とあわせて類語辞典をご案内してはいかがでしょうか。当館蔵書の中から特徴のある類語辞典をご紹介します。

「類は友を呼ぶ」 2冊をご紹介します。

① 早引き類語連想辞典 米谷春彦／編集

時として適切な語句が出てこなくて言葉に詰まったり、書き物の筆が止まってしまったりすることがあります。この辞典は使いたいと思いつけない語、意味の似たしっくりくる語を探したい時、頭に浮かんだ語の見出しを引き、そのカテゴリーに適切な語がなければそこにある別の語から別の語群を引くことができる構成になっています。多くの類語辞典は、一つの語を引いて開いたページになればそこで終わりですが、これなら使いたい言葉が見つかりそうですね。

(ぎょうせい刊 2001.6 983p 19cm 813.5/HA)

② 日本語大シソーラス 類語検索大辞典 山口 翼／編

序の冒頭にあるとおり言葉探しと類語検索に徹した辞典です。他の類語辞典と比較すると構成がシンプルで使いやすいと感じます。見出し語3万2千語、語数20万語。いろいろな語群に繰り返し出る語句もあり、延べ32万語がこの1冊にひしめいていることを考えると探している語が見つかるのは必至です。この辞典も前出同様“友達の友達”語を、付されている語群番号から探すことができます。

(大修館書店 2003.9 1549p 22cm 813.5/NI)

これも類語辞典？個性派の2冊です。

③ ちがいがわかる類語使い分け辞典 松井栄一／編

言葉の微妙な違いを他人に説明するのは案外難しいものです。例えば「あがる」と「のぼる」。基本の意味は共に「低いところから高いところへ移る」ですが、(プールから)「あがる」とは言っても、「のぼる」とは使わない。(山に)「あがる」「のぼる」はどちらも使いますが、意味の重点の置き方によって、どちらを使うかが変わります。ハンディな辞典で、扱っている語彙は見出し語501語、全2400語と少ないものの知りたい語が載っていれば意味、使い方を十分理解できる、まさに「ちがいがわかる」1冊です。日本語学習者に提供したい1冊です。

(小学館 2008.4 525p 19cm 813.5/C)

④ 日本語表現大辞典 比喩と類語三万三八〇〇 小内 一／著

近現代の作家264人、作品868から表現例を約3万3800収録。キーワードから連想されるさまざまな表現を知ることができるように構成されています。例えば「初夏」。川端康成は『掌の小説』の中で「六月の林の揺れる梢こすえが湯槽ゆぶねに写り込む昼過ぎの静かさ」と表現しています。風情あふれる文章を書きたい方にご紹介したい辞典です。本の帯には永六輔氏の感嘆の言葉が。「あの時、この言葉遣いを知っていたら、うまくいったのに」

(講談社 2005.3 869p 22cm 道立図書館請求記号 816.2/NI)

Librarian's Box (ししょぼこ) 【22】

地球と宇宙の間に ～天文情報を調べる～

今年 7 月 22 日は日食が起こり、日本全国で部分日食、奄美大島北部・トカラ列島・屋久島などでは日本で 46 年ぶりの皆既日食を観測できます。

「日食」とは、月が太陽の前を横切るために、太陽の一部（または全部）が隠される現象ですが、その「月」にアポロ 11 号が人類史上初めて有人月面着陸（1969 年 7 月 20 日）してから今年で 40 周年になります。

また、2009 年は「世界天文年」でもあります。「世界天文年」とは、イタリアの科学者ガリレオ・ガリレイが初めて望遠鏡を使い宇宙を観測した 1609 年から 400 年になることを記念して、ユネスコと国際天文学連合が定めたものです。

世界天文年のスローガンは「THE UNIVERSE: YOURS TO DISCOVER (宇宙 … 解き明かすのはあなた)」となっています。

今回は、その話題になっている「天文」に関しての調べ物に役立つツールをご紹介します。今年の夏は宇宙に思いを馳せてみるのも良いのではないのでしょうか。



『天文年鑑 2009 年版』 天文年鑑編集委員会／編 誠文堂新光社 2008.11

（請求記号：440.5/TE/H21 資料番号：1109277440 参考図書）

毎月の星空の案内、各地の日の出・日の入のデータ、太陽、月、各惑星とその衛星のデータ、新星、超新星、彗星、小惑星などのデータを細かに掲載。

2009 年版では、日本で見られる皆既日食について特にページを設けて解説。

『理科年表 第 82 冊（平成 21 年）』 国立天文台／編 丸善 2008.11

（請求記号：403.2/TO/H21 資料番号：1109277465 参考図書）

国立天文台が編纂する、科学の全分野を網羅するデータブック。暦部、天文部、気象部、物理・化学部、地学部、生物部、環境部、附録からなる。理科・科学データの原点として幅広く活用できる。平成 21 年版では、日本で 46 年ぶりに見られる皆既日食や、「世界天文年」に関連するトピックス記事などを掲載。

◆国立天文台 (<http://www.nao.ac.jp/>)

日本の天文学研究のための国立の共同利用センター。ホームページでは天文情報、関連施設、イベント情報等を紹介している。「天文情報センター暦計算室」には、各地の暦やその計算方法、暦要綱、暦象年表や用語解説がある。

「2009 年 7 月 22 日皆既日食の情報」のページも今回特別に開設されていて、この情報によると、北海道・札幌の「食の始め」は 10 時 4 分 30 秒、「食の最大」が 11 時 10 分 18 秒で、「食の終わり」が 12 時 16 分 3 秒であることが分かる。

◆理科年表オフィシャルサイト (<http://www.rikanenpyo.jp/>)

国立天文台が編纂する「理科年表」の公式ホームページ。

「理科年表徹底解説」では、理科年表に収録された各表の背景となる基礎知識、用語や数字の意味、データの活用方法、関連情報について、各部門の専門家が解説。

「理科年表 FAQ」では、理科年表のデータおよび関連するテーマに関する様々な疑問を、よくある質問への回答という形式で紹介・解説する等のページがある。

◆世界天文年 2009 ホームページ (<http://www.astronomy2009.jp/>)

ガリレオの望遠鏡観測から 400 年を記念した「世界天文年」のサイトで、天体観測や展覧会、講演会ほかのイベント情報、天文現象カレンダーや観測ガイドがある。

課員のつばやき ー日々の業務からの短信ー 【22】

～レファレンス、いつでもお受けします！～

ふと思い直すとここ15年、インターネット環境は本当に変わったと思います。私が学生だった頃は、今みたいな気軽さはなく各データベースにいちいちダイヤルアップで入って検索という授業を受けていました。図書館に入った頃、インターネットで蔵書検索ができる図書館もまだ数える程度。他の図書館へFAXで所蔵調査をお願いしていました（今でもお願いすることはありますが）。全国で蔵書検索ができる図書館を見つけると「お気に入り」の図書館フォルダにどんどん入れていた日々。それが今では横断検索であつという間に複数の図書館の蔵書を検索することができるようになっていきます。学生時代に『できるといいな』と思っていたことができるようになるとは。

話は変わりますが、みなさんはお気づきになっていたでしょうか。

当館ホームページの左側にある『メールレファレンス』という文字。これは、今年4月より開始した個人利用者向けメールによるレファレンスの入り口です。

メールによるレファレンスの受付は、全国的に始めている図書館が増えているサービスの1つです。当館でも、数年前より道内の公共図書館、公民館図書室等からのメールによるレファレンスの受付を始めていました（ご存知でない方は当館HP『図書館向け』をご覧ください）。しかしながら、利用者に対しては原則電話・FAX・文書での受付としていました。ただ、メールによるレファレンスの申込みを希望される方も多く、当館でも対応できないか検討を重ね正式稼働の運びとなりました。

メールレファレンスの利点は、利用者にとっては調査申込みの気軽さでしょうか。基本、24時間365日いつでも調査申込みができます。今までもFAXや文書（郵便）を使えば申込みはできましたが、インターネット上で申し込めることにより印刷や郵送準備などの手間が省けます。また、受ける図書館側としてもメールで受けることにより聞き間違いや語句の間違いなどを無くすることができます。

ただ、最初のアプローチでインタビューができない点で不安というのがあります。回答の手ごたえというのも電話や対面に比べるとやや感じづらく、この回答で大丈夫だったのか心配になります。

4月から運用して3ヶ月が経過しますが、思っていたほどの混乱もなく順調といえれば順調なのでしょう。現在受けている質問で多いのは、雑誌の所蔵調査と収録作品の調査。当館が所蔵している雑誌の一部は全国的に見ても所蔵館が少ないものも多数あるため、日ごろから道外を中心に調査依頼が多かったのですが、メールレファレンスでも同じ状況です。

冒頭の話の「できるといいな」の中にパソコンから調査依頼できたらいいかなというのもありました。実際自分が運用するとは思っていませんでしたが。ただ、インターネット上に情報は溢れており、図書館に来なくても引き出せる情報は数多くあります。その中で始めた「メールレファレンス」。ただ漠然とやっていますではなく、どう利用してもらうのか考える日々がこれからも続いていきそうです。

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2009年2月～2009年5月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 高田高史のレファレンスひろば(その9) 隠し味についてわかりやすく小学5年生の子どもに説明したい ほか / 高田 高史 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校 編(87) [2009.2・3]
- 2 わが国の公立図書館が直面する問題・課題と今後の方向性 / 薬袋秀樹 『社会教育』 752 全日本社会教育連合会 [2009.2] p.8~p.12
- 3 公立図書館司書に求められる資質能力を考える-本が好きだけで司書はつとまるか- / 川本憲之 『社会教育』 752 全日本社会教育連合会 [2009.2] p.14~p.18
- 4 事例研究:『再チャレンジ』を支援する図書館 / 小山市立中央図書館 『社会教育』 752 全日本社会教育連合会 [2009.2] p.20~p.23
- 5 事例研究:愛媛県立図書館のビジネス情報支援サービス / 天野奈緒也 『社会教育』 752 全日本社会教育連合会 [2009.2] p.28~p.30
- 6 インターネットにより図書館サービスを全域に提供--上海図書館のネットレファレンスサービスをモデルに(特集・第6回国際図書館学セミナー 全域サービス--第一線の図書館サービスをめざして) / 鮑 延明 『図書館界』 日本図書館研究会 60(6) (通号 345) [2009.3] p.426~431
- 7 れいあれんす三題断(その155)富山市立古沢小学校図書館の巻 寄り添い,導き,手渡すレファレンス--124の瞳との出会い / 佐藤 千雅子 『図書館雑誌』 103(2) (通号 1023) [2009.2] p.94~95
- 8 図書館に期待すること!(小特集 図書館へのメッセージ) / 稲田 善樹 『現代の図書館』 日本図書館協会 47(1) (通号 189) [2009.3] p.14~18
- 9 大学生・大学院生の望む図書館像 / 藤原達生 『現代の図書館』 日本図書館協会 47(1) (通号 189) [2009.3] p.24~28
- 10 国立国会図書館が発信するビジネス情報源--「産業情報ガイド」の紹介 / 長崎 理絵, 藤田 実花 『現代の図書館』 47(1) (通号 189) [2009.3] p.45~53
- 11 レファレンス事例に対するキーワードの自動付与(情報学基礎・デジタルドキュメント) / 樋澤 光紀, 原田 隆史, 江藤 正己 『情報処理学会研究報告』 情報処理学会 122009(35) [2009.3] p.69~76

- 12 利用者による楽譜検索での検索戦術 / 伊藤真理 『日本図書館情報学会誌』 日本図書13館情報学会編/日本図書館情報学会 55(1)(通巻177) [2009.3] p.1~22
- 13 音楽分野のオンライン検索研究 / 伊藤真理 『日本図書館情報学会誌』 日本図書館情報学会編/日本図書館情報学会 55(1)(通巻177) [2009.3] p.23~38
- 14 ソーシャルブックマーク(SBM)の機能を応用したパスファインダーの作成-webでの展開に適したパスファインダー作成の試み- / 和知剛 『短期大学図書館研究』28 私立短期大学図書館協議会 [2009.3] p.1~5
- 15 情報リテラシー教育における図書館職員の役割-NII研修プログラムの背景にあるもの- / 野末俊比古 『短期大学図書館研究』28 私立短期大学図書館協議会 [2009.3] p.23~32
- 16 レファレンスサービスをパワーアップするレファレンスナビの開発-図書館情報資源とweb情報資源の統合的利用- / 清田陽司 『短期大学図書館』 私立短期大学図書館協議会 [2009.3] p.51~56
- 17 れいあれんす三題噺(その156)香川県立図書館の巻 浸透するレファレンスサービス--館内外の情報を駆使して回答 / 藤沢幸応 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(3)(通号1024) [2009.3] p.166~167
- 18 高田高史のレファレンスひろば(その10) 船の上で行われる赤道祭について、いろいろ知りたい。できれば写真も見たい。ほか / 高田高史 『あうる』 図書館の学校 / 図書館の学校 編(88) [2009.4・5]
- 19 れいあれんす三題噺(その157)大阪国際児童文学館の巻 子どもの本の総合的資料センターでの子どもの本に関わる情報提供 / 川内五十子, 土居安子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(4)(通号1025) [2009.4] p.240~241
- 20 情報の「探し手」から「使い手」へ~公共図書館で感じるインフォプロ~/ 稲田聡子 『情報の科学と技術』 情報科学技術協会 59(5) [2009.5] p.222~225
- 21 れいあれんす三題噺(その158)福井県立図書館の巻 もっと気軽に使ってみよう--レファレンス協同データベース活用のススメ / 宮川陽子 『図書館雑誌』 日本図書館協会 103(5)(通号1026) [2009.5] p.302~303

NEWS

1 国立国会図書館の書誌データがダウンロード可能に (2/24)

国立国会図書館では、ホームページ上のNDL-OPACで検索した書誌データについてダウンロードできるサービスを始めました。ダウンロードしたデータは、利用に制限が設けられていないなど、幅広く利用することができます。詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.ndl.go.jp/jp/data/opac_syoshika_teikyo.html#a5

2 道立図書館、有料データベース5種類に (3/1)

北海道立図書館では、今年の4月からは新たな有料データベースを追加導入して5種類のデータベースによる運用の拡大を図っています。内訳は、道新（本社・地方版）と主要新聞の検索に利用する「日経テレコン 21」、学協会系に威力を発揮する国立情報学研究所の「CINII」、週刊誌など流通系の雑誌記事検索に強い日外アソシエーツ社の「magazine PLUS」、(社)農山漁村文化協会の「ルーラル電子図書館」、そして官報情報サービスの5種類です。いずれも事務用ですが、参考調査課の他、北方資料部、閲覧カウンターにおいてもレファレンスや相談業務に活用を図ります。

3 国会図書館HPでプランゲ文庫の検索が可能に (4/1)

GHQ 占領下の雑誌文化を語る上で欠かせない米国メリーランド大学の「プランゲ文庫」ですが、このコレクションのマイクロフィルム版を検索できる国会図書館のデータベースが公開されています。道立図書館では道内発行分のマイクロフィルムを所蔵していますが、組合わせて利用できるようになりました。同日、国立国会図書館の憲政記念館が所蔵する「日本占領関係資料」も公開されています。

4 千歳市立図書館、バリアフリー移動図書館車導入 (4/1)

千歳市立図書館では、運行開始から15年が経過し老朽化した移動図書館車「ブックくん」を更新しました。4月から運行を始めた新型は、以前に比べて蔵書スペースが広くなり、また専用リフトを搭載して車いすでも利用できるなどバリアフリー化が図られています。

5 道立図書館、個人向けメールレファレンスを開始 (4/1)

道立図書館では、インターネット利用者向けのメール・レファレンスを4月から本格実施しました。申込み方法も道立図書館のホームページからフォーム画面を呼び出して、必要事項を画面の記入ボックスに書き込むだけという簡易な方法を採用しています。利用状況は月十数件程度に留まっていますが、道外から、あるいは開館時間外の質問も寄せられるなど、新たな利用層の開拓につながるものと期待しています。

<http://www.library.pref.hokkaido.jp/reference/main.html>

6 恵庭市立図書館、子ども用ホームページを公開 (4/15)

恵庭市では、小中学生の総合学習などで恵庭市のことを調べる際に役立つ子ども用のホームページを開設しました。調べ方の「パスファインダー」や他校資料の相互貸借の仕組みまで、市立図書館と学校図書館の活用法がわかりやすく理解できる内容になっています。

(「恵庭市のホームページ」→「まなぶ」→「図書館」→「子ども用ホームページ」)

<http://opac.city.eniwa.hokkaido.jp/kids/>

7 様似町図書館の新聞記事リスト5周年 (4月)

町立様似図書館のホームページで公開している、町内の新聞記事情報「様似の動き」が5周年を迎えました。北海道新聞地方版と日高報知新聞の2紙に掲載された、様似町に関する記事情報を毎月提供しています。ホームページは、表組みで「日付」「記事内容」「紙名」の3点というシンプルな構成ですが、累計で1,840件(5月末現在)に達しています。最新の見出しは「アポイ岳ジオパーク推進 道の地域再生チャレンジ交付金」

<http://pc5.samanilibrary-unet.ocn.ne.jp/>

8 子ども書庫ツアーを開催 (5/5)

道立図書館では読書週間中の子どもの日に合わせた書庫ツアーを「子ども向け図書館ツアー」と題して開催しました。当日は14名の親子連れの方が参加し、普段は立ち入ることができない館長室、事務室をはじめ、児童書庫や閉架書庫の中を、途中クイズ仕立てで本を探すゲームなども楽しみながら、図書館の本の並び方のルールや図書館の役割について熱心に見学していました。道立図書館では、今回を含めて年間4回の書庫ツアーを予定しています。

9 国立国会図書館しらべものの総合サイト「リサーチナビ」公開 (5/11)

国立国会図書館では、近年、その圧倒的な蔵書量とデータベースをはじめとする各種の蓄積情報を活かした“調べ方”＝ノウハウに関する情報サービスをインターネットを利用して積極的に展開しています。5月には、これまでに公開してきた調べ方に関する情報ページを使いやすくするポータル・サイトの「リサーチ・ナビ」サービスを開始しました。

また、同日、新たに公開された「目次データベース」「近代日本軍事関係文献目録」「日本人名情報索引(人文分野)データベース」「科学技術論文誌・会議録データベース」などのデータベースにも注目です。<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/> (関連記事 p.3 の「オススメ情報」もご覧ください)

- ・目次データベース <http://rnavi.ndl.go.jp/mokuji/>
- ・近代日本軍事関係文献目録 <http://rnavi.ndl.go.jp/gunji/>
- ・日本人名情報索引(人文分野)データベース <http://rnavi.ndl.go.jp/jinmei/>
- ・科学技術論文誌・会議録データベース(旧名:日本科学技術関係逐次刊行物総覧) <http://rnavi.ndl.go.jp/kaigi/>

10 道民カレッジ連携講座 初級編・応用編を連続開催 (5/21・6/25)

道立図書館では、図書館の利用講座「暮らしに役立つ図書館活用術」(道民カレッジ連携講座)を開催しました。今回は、従来春と秋の2回に分けて行っていた基礎編、応用編を連続開催し、受講者のスムーズな習得を目指す試みを行っています。受講者は両日の講座で図書館の基本的な仕組みから雑誌・新聞記事情報の活用方法まで、楽しく学習することができました。

11 北広島市図書館「Webレファレンス」はじまる (6/2)

以前から Web 版パスファインダーや SDI サービスなど先駆的なインターネットサービスに取り組んできた北広島市図書館では、この 6 月からインターネット経由によるレファレンスサービス「WEBレファレンス」を開始しました。利用するには事前に市内の図書館・各地区図書室で登録することが必要となっています。また、特定のテーマ（図書館で用意した 30 個）に合致した出版情報や雑誌記事タイトルの情報を定期的に入手できるサービスも実施しています。こちらは図書館・図書室での事前登録は不要ということで、全国どこからでも利用することができます。配信の頻度は、月に 1 度。月末にデータを抽出し、月初め（10 日前後）に配信するということです。

<http://www.educ.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/lib/toshow/hp1/O100.html>

12 全道図書館新任職員研修でレファレンス演習 (6/3~6/5)

平成 21 年度全道図書館新任職員研修会が 6 月 3 日(水)~5 日(金)に開催され、全道から 44 名の図書館職員が参加しました。当課では、日程 3 日目のレファレンス講義・演習を担当し、グループ討議も含めた実践的な演習となりました。

13 市立釧路図書館、釧路高専図書館連携協力から半年

昨年 12 月 2 日に釧路高専との間で連携協力の協定を結んだ市立釧路図書館では、月に 2 回、市立図書館の図書館バスが高専に立ち寄り、図書を相互に配本する相互協力を始めました。これにより釧路市民、高専の学生や教官は互いの図書を気軽に利用できるようになりました。現場担当者に半年間の実績を尋ねたところ、「まだまだこれから」とのことでしたが、以前は着払いで借りていた資料が借りやすくなった点など、今後の資料提供にぜひ活用していきたいとのことでした。

<http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/news/article.php?storyid=254>

編集後記

- ◇ 5年ぶりに参考調査課に戻ってきました。仕事の流れが前とは違うところもあり、「慎重に」「正確に」で進めています。また、久しぶりに書く Do-Re の原稿にも悪戦苦闘。読みやすい文章って本当に難しいです。(on)
- ◆ 新しく入った児童書のある事典では「薄型テレビ」や「カーナビゲーションシステム」などがありました。テレビはブラウン管ではなく、体温計は水銀ではなく、etc ゲーム機は「Will」と「PLAYSTATION3」の説明でした。副題が「身近なモノのしくみと歴史」なので、これが今時の子供の環境なのかとしみじみ思いました。時代と共にレファレンスツールに収録される言葉も移り変わっていくのですね。(や)。
- ◇ 「ししょばこ」にも書きましたが、今年は何かと宇宙や天文学が話題になりそうな年です。これを機会に、図書館でも宇宙に関する本の展示等をしてみたらどうでしょうか。
話は変わりますが、道立図書館の庭ではたまにエゾリスを見かけたり、赤れんがサイロは近代化産業遺産に登録されたりと、最近散歩するのが楽しみになりました。(T)
- ◆ 北方資料部で所蔵している古地図などのデジタル化作業がはじまりました。その現場をたまたま目撃。細かい文字も、拡大してはっきり読めるようになるそうです。ウェブで公開される日が楽しみです。(た)
- ◇ 先日、長く北海道武蔵女子短期大学で教鞭を取られ、北広島市図書館の初代館長、道内図書館の先駆・函館図書館の岡田健蔵氏の研究でも著作を残されるなど活躍された坂本龍三先生が亡くなられました。また、その10日後には、中小図書館の可能性を理論と実践の両面で追及し続けた元周東町立図書館長で山口県図書館協会会長の山本哲生さんも亡くなられました。お二方とも大先輩で、熱く、また図書館現場の図書館員という職業をこよなく愛されておられていたのが印象に残っています。心よりご冥福をお祈りします。(へ)
- ◆ 今年度、最初のDo-Reをお届けします。新任研も終わり、やっと夏の陽気となりました。標茶町の丹さんからいただいた素的なお便りに感激。感謝々々。
さて、平成21年度の参考調査課の船出にあたり、次のとおり異動がありましたのでお知らせします。今年もよろしく願いいたします。 <S>

<館内異動>

工藤尚子 北方資料部 収集保存課へ
大塚寿信 奉仕部 奉仕課から



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。

しかしながら

“どれどれレファレンス”からの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.35(通巻39号)

発行年月日 平成21年7月2日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>

e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
